



ドイツ一部地域で PVL 陽性市中感染型 MRSA が増加 2012～2016年のライン・ネッカー大都市圏の 感染例を調査

Int J Antimicrob Agents. 53(3):261-267, 2019

ドイツのライン・ネッカー大都市圏では、ここ数年の間に、Panton-Valentine ロイコシジン (PVL) を産生する毒性の強い市中感染型のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) が増加していたことが、ハイデルベルク大学病院 (ドイツ) の Sabrina Klein 氏らの研究により示された。研究の詳細は「International Journal of Antimicrobial Agents」3月号に掲載された。

MRSA はいまだ医療ケアにおける大きな課題であり、市中で感染する MRSA は病院内で感染する型に比べて毒性が強い傾向がみられる。人口の移動、旅行、移住や移民の増加などにより、毒性の強い市中感染型の MRSA が国境を越えて拡散している可能性があり、また、病院の外来部門は、院内に市中で感染した MRSA が持ち込まれる重要な経路とされる。

Klein 氏らは、2012～2016年に、黄色ブドウ球菌による皮膚および軟部組織感染症のため同大学病院の外来を受診した患者 2,475 例の感染部位からブドウ球菌株を分離。分離株のうち MRSA 株 (3.8%、94 株) を対象に、市中感染型 MRSA 株の特徴について分析した。

その結果、分離された MRSA 株のうち 40.4% (38 株) は毒性の強い PVL 産生株であった。また、PVL 陽性 MRSA 株の年間の割合は、2013 年から 2016 年にかけて 19% から 54% へと増加し、この増加には旅行歴と移住歴が有意に関連することが分かった。

さらに、MRSA 株の 42.6% (94 株中 40 株) は欧州起源だったが、44.7% (同 42 株) は欧州以外の国や地域に由来するものであった。特に後者は、移民が急増した 2015～2016 年に増加がみられた。

MRSA 株による抗菌薬の耐性率については、フルオロキノロン系 (57.4%)、クリンダマイシン (56.4%)、マクロライド系 (68.1%) で高く、トリメトプリム・スルファメトキサゾール (7.5%)、テトラサイクリン (17.0%)、ムピロシン (2.1%)、フシジン酸 (11.7%)、さらに消毒薬のクlorルヘキシジン (4.3%) では低かった。なお、リファンピシン、ホスホマイシン、リネゾリドへの耐性はみられなかった。

Klein 氏らは「今回の研究は単施設の患者を対象としたもので、その結果には地域差がある可能性もある」と研究には限界があることを認めながらも、研究結果は、市中感染型 MRSA 感染の疫学像が急速に変化している可能性を示すものと指摘。「PVL 陽性 MRSA が増え、また欧州以外の地域から MRSA 株が流入してくると、我々の地域の MRSA 浸淫状況が変わってしまう可能性があることから、今後注視していく必要がある」と結論付けている。

- (1) メディカルカスタムコンテンツは、AJ Advisers LLC が制作、株式会社プロウエーブが編集 (編集協力 AJ Advisers LLC) した記事です。情報の正確性については万全を期しておりますが、各制作・編集社は、利用者が本記事の情報をを用いて行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。
- (2) 本記事の内容及びメディカルカスタムコンテンツのロゴの無断転載・配布を禁じます。
- (3) 掲載されている薬剤の使用にあたっては添付文書をご参照ください。